

News & Topics

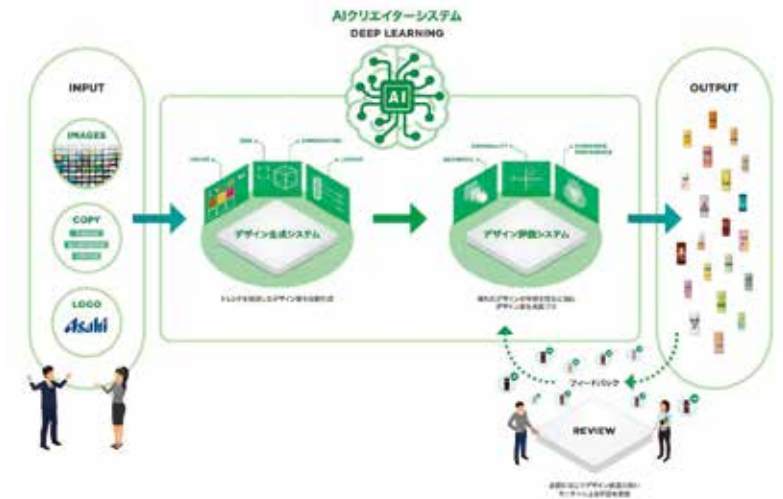
ニュース & トピックス 2020.3~2020.6

2020
3月

最新トレンドを反映し優れたパッケージデザインを生成する 「AIクリエイターシステム」を共同開発

アサヒグループホールディングス(株)とCogent Labs(株)は、最新のトレンドを反映し、これまでにない独創的なパッケージデザインを生成する「AIクリエイターシステム」を共同で開発しました。このシステムは、ディープラーニング[※]を活用することで、AIが優れたデザインに共通する特長を独自に抽出し、人間では簡単に思いつかないようなアイデアを生み出すことが可能です。飲料食品は、“見た目”が優れていることが購買を決定づけるケースがあります。商品の特長を端的に表現するだけでなく、持つことでその人の好みやスタイルを表現できるような魅力的なパッケージの商品を生み出すことで、お客様の購買意欲を刺激し、市場の活性化を目指していきます。

[※] ディープラーニングとは、人間が自然に行う分類、認識、検知、記述など、つまり「理解」や「判断」する能力をコンピュータに学習させる機械学習の手法のひとつです。



「森のタンブラー」が世界的デザイン賞 「iFデザインアワード2020」^{※1}を受賞

アサヒビール(株)がパナソニック(株)と共同開発した世界初^{※2}のエコカップ『森のタンブラー』が世界的に権威あるデザイン賞「iFデザインアワード2020」を受賞しました。『森のタンブラー』は、使い捨てプラスチックカップ削減のために“マイカップ”としての使用を提案しているビアカップであり、イベント等で繰り返し使用するだけでなく、家庭でも食器として使用していくことで、プラスチックゴミを発生させない考え方を啓発しています。優れたデザイン性でありながら、“使い捨て”という消費行動を変革していくことを目的とした取り組みをパナソニック(株)と共に推進し、CO₂排出量増加による気候危機や使い捨てプラスチックによる海洋汚染などの社会課題を解決し、持続可能な世界の実現を目指します。

^{※1} 「iFデザインアワード」は、ドイツ・ハノーバーに本拠地をおく国際フォーラムデザインが主催するデザイン賞で、優れたデザインの証として世界でも認知されているデザインアワードです。

^{※2} 当社調べ



2020

6月

『アサヒスーパードライ』 イタリア・ローマ工場での現地生産開始

アサヒグループホールディングス(株)傘下で、イタリアでのビール製造を担うBirra Peroni社は、2020年6月上旬より同社のローマ工場(所在:イタリア・ラツィオ州)において『アサヒスーパードライ』(缶容器・瓶容器)の生産を開始し、欧州各国に順次出荷しています。現在アサヒグループは、「アサヒスーパードライ」の樽容器・瓶容器商品をBirra Peroni社のパドヴァ工場(所在:イタリア・ヴェネト州)で製造し、英国・イタリア・フランスなど欧州各国向けに販売しています。本件を通して、当社の主要事業エリアである欧州で展開される「アサヒスーパードライ」全てを現地で製造することになります。アサヒグループは、「アサヒスーパードライ」をグローバルプレミアムブランドと位置づけ、統一されたブランド世界観のもと、世界各国どこでも等しく高品質な状態でお客様に提供することを目指し、取り組みの強化を図っています。



「アサヒの森環境保全事務所」の森林管理面積を拡大

アサヒグループホールディングス(株)は、持続可能な水資源利用100%(ウォーターニュートラル)を実現する一環として、社有林「アサヒの森」を管理する「アサヒの森環境保全事務所」の森林管理面積を2,165haから2,173haへと拡大すべく、林野庁近畿中国森林管理局と分収造林契約[※]を締結しました。アサヒグループは、今後もさらなる工場での水使用量削減や、森林管理面積を拡大し持続可能な森林経営に取り組むことで、「アサヒグループ環境ビジョン2050」に掲げた「持続可能な資源利用100%を目指す(農産物原料、容器包装、水)」目標を達成していく計画です。

[※] 国有林における分収造林契約とは、国以外の者(造林者)が契約により、国有林に木を植えて一定期間育て、成林後に分収木を販売し、その収益(販売代金等)を国と造林者とあらかじめ契約した一定の割合で分収する制度です。